

コンセプト:

「国家経営方針: 環境・気候が変化しても持続可能な日本と世界の豊かさを生み出す仕組み」

失業者の増加や家計所得の減少による食糧(購買力)不足が先進国でも問題になり、金融緩和によるインフレ期待と同時に「流動性の罠」によるデフレ懸念が共存しています。新興国の人口ボーナスに乗じてローエンド製品消費層が拡大している局面では、高付加価値(高人件費)のハイエンド製品を得意としている日本は不利ですが、比較的ローエンド製品のコスト削減により、付加価値を高める努力をしています。



世界的に成長を持続するためにはハイエンド製品消費層(高所得層)は更に高付加価値の生産を目指さざるを得ない折、気候・降水分布変動・人口ボーナス⇔水資源枯渇⇔需給不安・紛争⇔金融⇔原油・燃料価格の相関も指摘されています。そこで、2009年シンポジウムに引き続き、国際共同プロジェクトを如何に起こして、何をなさなければならないのか、2010年シンポジウムに向け検討し方針を示しましょう。企業や他学会等の法人会員募集中です。

プログラム

1. 開会挨拶 会長 新田 義孝
2. 基調講演 染井 金澤大學名誉教授

『黄沙、地球温暖化防止を志向した植物根伸長剤の開発と、その食糧増産、ゴビ砂漠緑地化実験の経過報告』

3. 持続的な国家システムの思索 (亀田 泰武)

4. 食糧危機への対応-国際比較の視点から- (TARF[秋吉・増子])
5. 「資本課税問題におけるラムゼールールと外国資本比率」(木村 正信)
6. 日露共同プロジェクト (角田 晋也)
7. アルカリ土壌改良 (新田 義孝)
8. パキスタン共同プロジェクト「何ができるか?」討論 (座長:北見 辰男)
「平田俊道氏(公郷生物研究所、所長)の講演」(予定)
9. 全体討論:2010 シンポジウムに向けたプロジェクト企画
10. 総括 (角田 晋也)
11. 閉会あいさつ JAMES理事長 吉野文雄

II 懇親会



主催;日本マクロエンジニアリング学会

共催;拓殖大学海外事情研究所

場所;拓殖大学文京キャンパス